

鯖江駅東口等整備基本計画 概要版

1 基本計画策定の背景

令和6年春には、北陸新幹線福井・敦賀開業が予定されています。これにより、JR北陸本線が並行在来線に移管され、鯖江駅に停車する特急列車「しらさぎ」、「サンダーバード」が廃止されることになります。

現在、鯖江駅を利用している方々は、北陸新幹線開業後、関西・中京方面へは敦賀駅での乗り換えが必要となり、鯖江市民はもとより、観光・ビジネスなど様々な目的で県外から鯖江に訪れる方々の利便性を低下させ、負担増となることから、快適な市民生活や観光、経済活動への影響が危惧されています。

また、JR北陸本線（並行在来線）は、通勤・通学など日常生活において多くの市民の方が利用しており、交通結節点としての機能強化と、更なる利便性の向上が求められています。

さらには、駅を拠点とした観光・産業の情報発信やおもてなしの交流イベント開催など、駅周辺の活性化とにぎわい空間の創出に向けたまちづくりが求められています。



鯖江市では、北陸新幹線開業に向け鯖江市交通ビジョンを策定し、鯖江駅東口改札や駅周辺整備などの対策に取り組むこととしています。

2 鯖江駅周辺の現状

- ・JR鯖江駅は西側に駅舎と改札があります。
乗車人数：平均2,349人／日（H30）
- ・既存駅舎内には、待合室や売店、観光案内所、ものづくり産業PRブース（鯖江駅眼鏡）、図書館カフェがあります。
- ・東側はパーク＆ライド駐車場が整備され、地下道を通り駅を利用しています。
市営駅東駐車場：212台（3箇所）
- ・西口には駅および周辺店舗等の短時間利用の方の駐車場が整備されています。
市営駅前駐車場：31台（1箇所）
- ・現在、東西ともに駅利用者の乗降場がなく、路上停車による乗降が行われています。
- ・西口には2箇所のバス停（停車帯有）が整備されており、東口には1箇所のバス停（停車帯無）があります。
- ・タクシー乗り場は、西口の駅舎北側に1箇所整備されています。



3 鯖江駅周辺の課題

○北陸新幹線福井・敦賀開業後の鯖江駅利用者の維持・増加

- ⇒観光・ビジネス客への対応（観光案内、ものづくり産地のPR等）
- ⇒二次交通の充実（観光バス・タクシー・レンタカー・カーシェアリング等）

○日常生活における鉄道利用者の利便性の向上

- ⇒乗降スペースの確保など鯖江駅東口の交通結節点としての機能強化、東口改札の新設
- ⇒待合機能の向上、学習・交流の場の提供

○鯖江駅を拠点としたまちづくりの推進、地域の活性化

- ⇒中心市街地のにぎわいの創出、駅周辺からの人の流れの促進

4 整備の基本方針

■鯖江市が目指す将来像

笑顔があふれる「めがねのまちさばえ」 ～人が集い・輝き・挑戦するまち～

■駅周辺のまちづくり方針

- ＜西口＞ 老舗が数多くあるまちなか商店街や風情あるまち並み、約5万株のつつじに彩られる西山公園などにつながる起点の役割があります。
- ＜東口＞ メガネストリートを経由しめがねミュージアムや、1500年の歴史がある越前漆器の産地うるしの里へとつながる産業観光の起点の役割があります。



鯖江駅を駅周辺の特色を最大限に活かすプラットフォームとして位置づけ、まちなか周遊観光や産業観光の情報発信を強化し、様々なひとが集まり交流する機会を創出し、笑顔があふれるめがねのまちさばえを目指します。

■整備のコンセプト

「まち・ひと・くらしを笑顔でつなぐ鯖江駅」

「めがねのまちさばえ」にあふれる地域資源をつなぎ、鉄道を利用する鯖江市民、県内外から鯖江を訪れる方々をつなぎ、通勤・通学・買い物等の日々の暮らしをつなぐ、人が集い笑顔あふれるにぎわいのある空間の創出を目指します。



《整備の基本的な方向性》

【子育てしやすく快適に暮らせるまちづくりの創造】

- 近年の人口減少、少子高齢化社会が進むなか、公共交通を中心としたまちづくりを推進
 - ⇒通勤通学、買い物などの日常生活における鉄道利用者の利便性の向上
 - 学生やビジネス客、子育て世代が駅を学習・交流の場として活用できる空間の提供
 - ・東口改札の新設（自由通路の整備）
 - ・駅東広場の整備（交通結節点の強化）
 - ・既存駅舎の活用（利用方法の見直し）
 - ・休憩施設（待合室、飲食店等）
 - ・その他（西口の一般乗降場の整備、駅舎前歩道拡幅等）

【魅力あるまちづくりの創造】

- 鯖江駅は、市の玄関口、まちの顔としての役割を担う
 - ⇒駅周辺の活性化とにぎわい空間を創出するため、駅を拠点とした観光・産業の情報発信、ものづくり産地としてのPR、文化交流、イベント開催などのソフト事業を展開
 - ・複合施設の整備（産業観光情報発信、展示・交流スペース等）
 - ・レンタサイクル
 - ・各種イベント開催

5 駅周辺整備で期待される効果

- ・鉄道利用者数の維持・増加
- ・送迎での路上停車による乗降の解消
- ・安全安心な歩行空間の確保
- ・丹南地域の産業観光の振興（観光客増）
- ・新たな二次交通の創出
- ・駅を拠点とした交流人口の増加
- ・まちなかのにぎわい創出

6 まちづくりの将来展望

鯖江市の「顔」として整備する鯖江駅は、鉄道利用者にとどまらず、県内外からの人々が集まる場所として機能を高めることで、駅周辺に新たな店舗や事業所などが充実し、相乗効果によって周辺地域への宅地需要が増加し、まちなかの活性化につながっていくものと期待します。

駅周辺整備計画の概要

■西口広場

1) 整備方針

- ・通勤通学、買い物などの日常生活における駅利用者や県内外から観光・ビジネスで訪れる方の利便性向上を図るため、安全安心な乗降スペースを確保し、駅前にゆとりある快適な歩行空間を確保できるよう再整備します。

2) 計画概要

- ・駅舎前の歩道を拡幅し歩行空間の拡大と自由通路を整備します。
- ・駅舎北側に乗降スペースを整備し、一般車乗降場、タクシー乗り場を配置します。
- ・乗降場には快適な歩行空間を確保できるよう、歩道とシェルターを設置します。

■自由通路（東口改札）

1) 整備方針

- ・東口改札の整備として、連絡橋を設置するにあたっては駅西側まで延伸し、駅東西のそれぞれの玄関口としての顔をつなぎ、新たなまち・ひとのにぎわいを創出する自由通路とします。

2) 計画概要

- ・自由通路は、24時間東西を移動でき、エレベーターも利用可能とします。
- ・東口からの駅利用にも対応できるように、自由通路からホームへの階段を設置し改札口を設けます。併せて、既存のホーム内エレベーター連絡橋にも接続し、エレベーターを使用してのホームとの移動を可能とします。

■東口複合施設

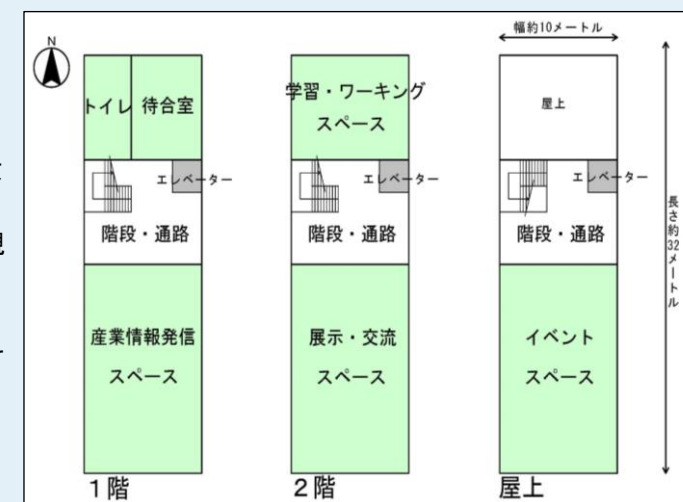
1) 整備方針

- ・駅利用者の利便性を向上させるとともに、眼鏡・漆器などの産業観光情報発信や広域交流の拠点および日常の通勤通学における快適な移動空間を創出します。
- ・自然エネルギー（太陽光）を活用した環境にやさしい施設を目指します。

2) 計画概要

- ・自由通路に併設して複合施設を整備します。
- ・学生やビジネス客が利用しやすい施設とするため、施設内に学習・ワーキングスペースを設けます。
- ・眼鏡、漆器など、丹南地域のものづくり産業の観光情報を発信するスペースを設けます。
- ・屋上にイベントスペースを設けます。
- ・駅やタクシー、バス利用者のための待合室を設けます。

■基本レイアウト



■西口既存駅舎

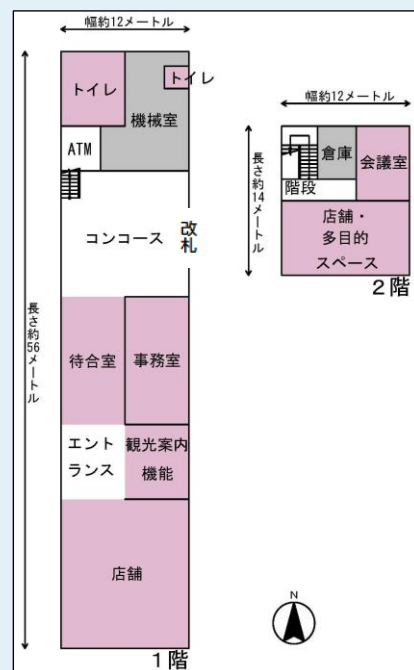
1) 整備方針

- ・通勤通学、買い物などの日常生活における駅利用者の利便性の向上や、中心市街地や西山公園等をつなぐにぎわいづくり、まちなか周遊観光の情報発信拠点として機能を強化します。

■基本レイアウト

2) 計画概要

- ・東口複合施設の新設にあわせて、外部および内部の改修を行います。
- ・駅利用者の方々にまちなか周辺の情報発信を行うため、観光案内機能を設けます。
- ・各部屋に外部との出入口を設けることで、利用しやすい動線に配慮します。
- ・利用者に対してゆとりある空間を創設するため、待合室を現況より拡大します。
- ・店舗は、駅利用者をはじめ駅周辺のホテル宿泊者等も利用しやすい内容・規模とします。



■デザインコンセプト

今後、鯖江市の顔としてふさわしい駅周辺整備となるよう、バリアフリーやユニバーサルデザイン、景観等に配慮した統一的なデザインコンセプトを設定しながら整備を進めます。

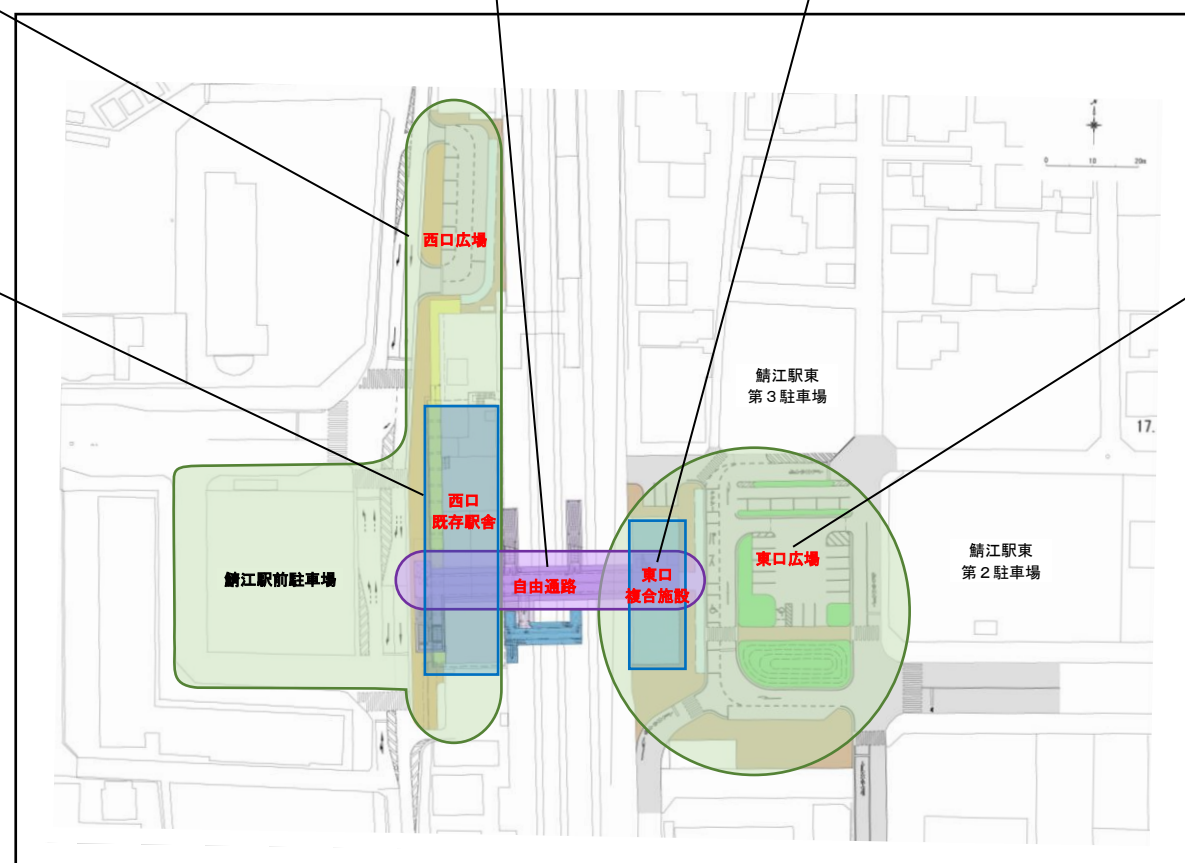
■東口広場

1) 整備方針

- ・通勤通学、買い物などの日常生活における駅利用者や県内外から観光・ビジネスで訪れる方の利便性向上を図るため、東口に交通広場を再整備し、交通結節点を強化します。

2) 計画概要

- ・バス乗降場、タクシー乗り場、車いす利用者乗降場、一般車乗降場を配置します。
- ・一般送迎者、複合施設利用者の駐車場を整備します。
(※料金体系については駅前駐車場(西口)と同様とします。)
- ・複合施設前に快適な歩行空間を確保できるようシェルターを設置します。
- ・広場内には緑地空間を設け、東口のシンボルとなるモニュメント等を設置します。
- ・冬季降雪に備え、消雪施設を整備します。



■東口駐車場

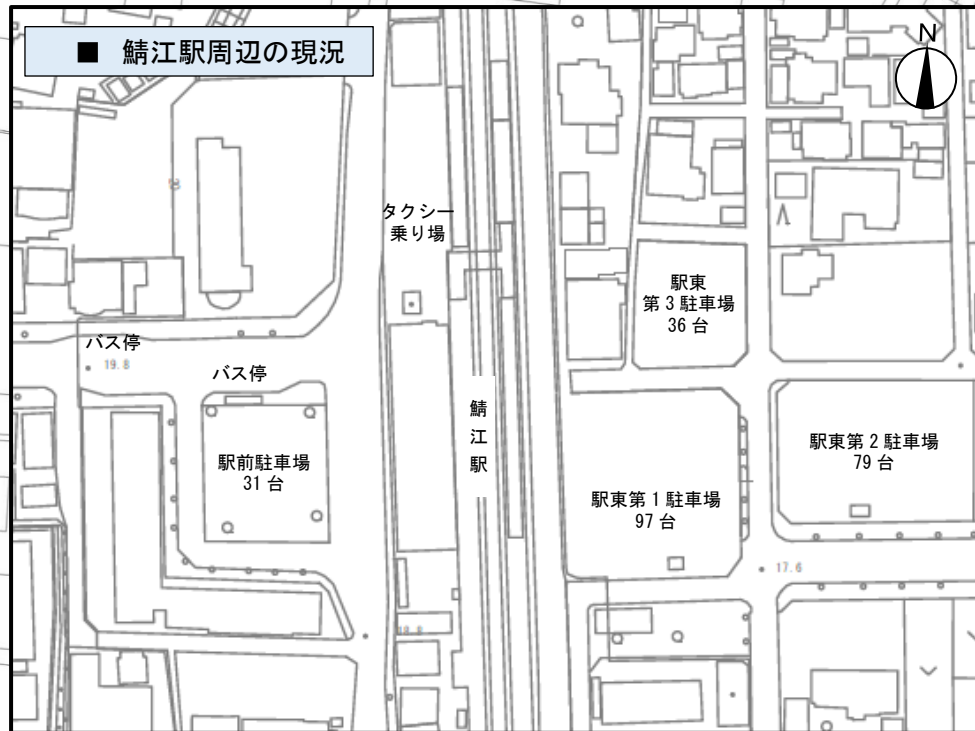
現在、鯖江駅東口駐車場の利用台数は202台/日ですが、新幹線開業後の駐車場の需要は、通勤・通学利用での変化はないものの、県外出張や旅行などの利用者が一部「越前たけふ駅」に転換され、駐車台数は163台/日に減少することが推測されます。

東口広場の整備により、現在212台ある駐車場が115台に減少することから、不足する48台については、近隣民間駐車場と連携し、需要に応じ必要台数の確保に努めます。

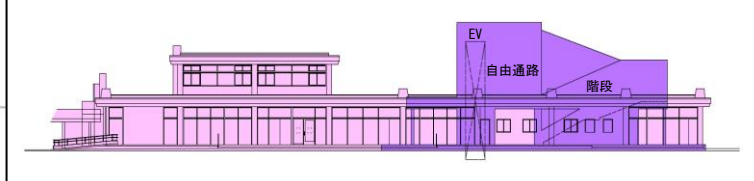
※整備計画の規模・レイアウト等については、今後の設計段階で変更することがあり、確定したものではありません。

全体整備計画図

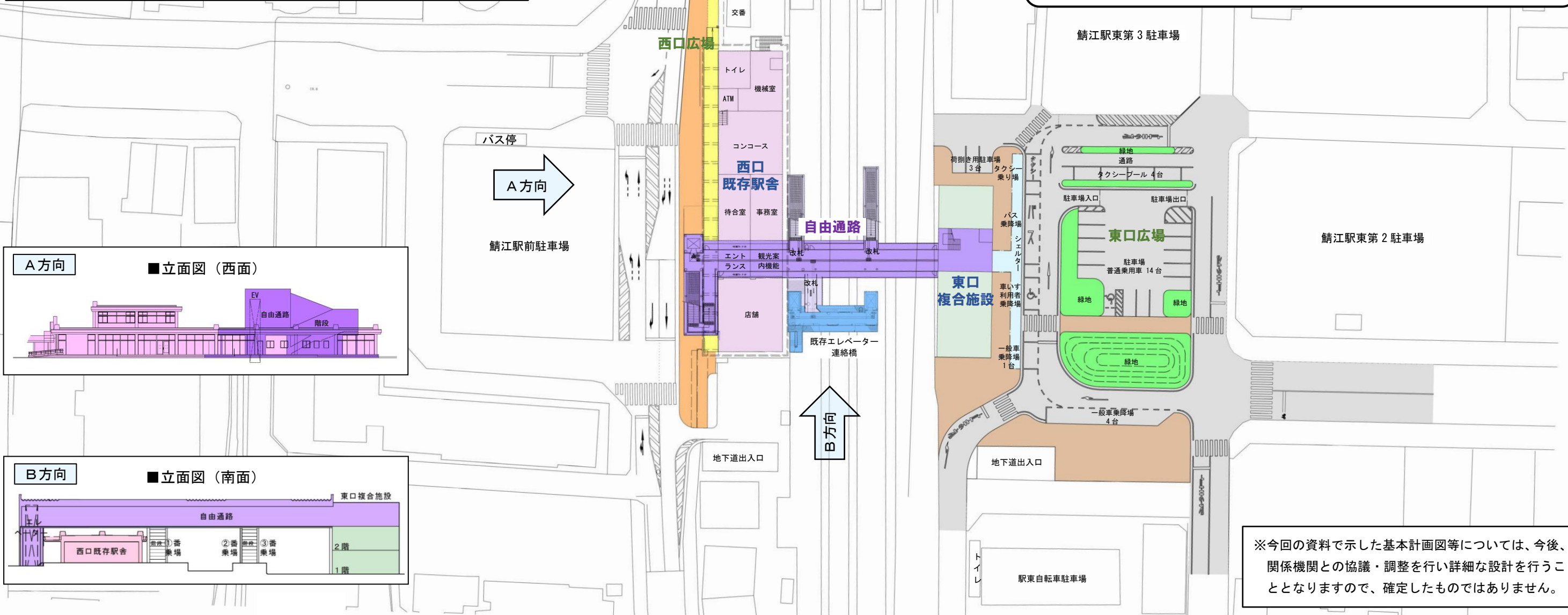
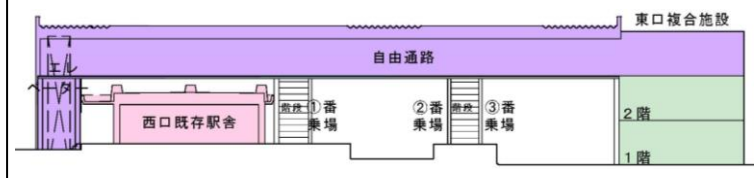
■ 鯖江駅周辺の現況



A方向 ■ 立面図（西面）



B方向 ■ 立面図（南面）



■ 計画の推進に向けて

○「まち・ひと・くらしを笑顔でつなぐ鯖江駅」をテーマにしたソフト事業の展開

- ・地元商店街や市民団体と連携し、歴史・文化・食などの地域資源を生かしたイベントの開催や「まちなか観光」の充実に取り組みます。
- ・市内最大の観光施設である西山公園の更なる魅力向上に努めます。
- ・オープンファクトリーなど新しい視点での産業観光の推進に取り組みます。
- ・メガネストリートの充実や丹南地域のものづくり情報の発信により産業観光のハブ施設としての機能強化を図ります。
- ・鯖江ならではの市民力を生かしたおもてなしで、お客様をお迎えし、観光客の再来訪を促します。
- ・駅周辺施設を利用し、市民や利用者が楽しめるイベントを企画します。

■ 整備スケジュール

- ・駅周辺整備については、北陸新幹線福井・敦賀開業までに必要な調査・設計等を実施し、令和6年度に着手することを目指すものとします。
- ・基本計画策定後、基本設計を行い、各施設の規模・整備内容を踏まえ、工事工程を検討し、計画全体のスケジュールを設定するものとします。

※今回の資料で示した基本計画図等については、今後、関係機関との協議・調整を行い詳細な設計を行うこととなりますので、確定したものではありません。